

## ■本書の特徴と使い方

1. 「簿記の基本だけど、すぐには覚えづらいこと」を、いつでも確認できるようにしました。

「財務諸表のひな形」を左側ページの上部に掲載しています。

|             |    |             |           |
|-------------|----|-------------|-----------|
| 損益計算書 (P/L) |    | 貸借対照表 (B/S) |           |
| 費用          | 収益 | 資産          | 負債<br>純資産 |

**180 借方**  
(第9章-10)

**貸方 181**  
(第9章-11)

仕訳例では、5要素とその増減が一目でわかるようにしています。

2. 本文にはわかりやすさの工夫が多く入っています。

### 第5節 合併

近年、企業再編が活発に行われています。本節では、企業再編の手法の1つである合併について学習します。

**1 合併とは**

**CHECK**

**勘定科目**

- のれん (資産 下平) : 合併対価が受入純資産額を超過する場合の当該差額
- 負ののれん発生益 (収益 下平) : 受入純資産額が合併対価を超過する場合の当該差額
- のれん償却 (費用 下平) : のれんの償却費用

**用語** 合併 : 2つ以上の会社が1つの会社になること  
受入純資産額 : 消滅会社から受け入れた資産と負債の差額

(1) 合併とは  
合併とは、2つ以上の会社が1つの会社になることをいいます。合併の方法には吸収合併と新設合併の2つの方法がありますが、実務上も試験上も吸収合併によるため、本書でも吸収合併を前提に説明をします。  
吸収合併では、ある会社 (下図のA社) が、他の会社 (下図のB社) を吸収することによって1つの会社になります。この結果、B社は消滅するため、B社のことを消滅会社、A社のことを存続会社と呼びます。

A社  
当社

← B社を吸収

B社

→

A社  
当社

B社  
消滅

B社はA社に吸収され、消滅する。

これから学習する内容の概略を把握できるようになっています。

その論点でおさえるべき、勘定科目と、用語をまとめています。

文章によるわかりやすい説明だけでなく、図解を多く盛り込んでいます。

**補足**

**株式の議決権**  
株式の保有者にはその会社の議決権があります。議決権とは、株主総会での投票権のことです。株主総会で重要事項<sup>\*</sup>を決定する際は多数決で決めるのですが、この多数決は資本多数決です。資本多数決のもとでは、株式の所有割合に応じて投票権が付与されます。  
例えば、B社の発行済株式数が40株で、そのうち4株を持っていれば、10%分の投票権があることとなります。もし、21株以上を所有していれば投票権の過半数を所有していることになるので、必ず自分の意見が通るようになります (これを、「その会社を支配している」といいます)。  
<sup>\*</sup>配当金をいくらにするか、経営者を誰にするか、経営者の報酬をいくらにするかなどを決定します。

**ひと言アドバイス**  
「その会社の株式を過半数所有していれば、その会社を支配できる」という点はまた後で出てくるから、おさえておこう!

発展的な内容や、理解を深めるための内容は、補足に書かれています。本文と合わせて読むようにしましょう。

ひと言アドバイスには、問題を解くうえでの注意点や、理解の手助けとなるワンポイントなどを書きました。

(2) **ファイナンス・リース取引のイメージ**

**Case Study**

A社は、車両 (購入した場合の価額500円、耐用年数5年) のリース契約を締結した。リース料総額は550円 (年間リース料110円、年1回後払い)、リース期間は5年間である。

<取引の特徴>

リース料総額と購入した場合の価額、リース期間と耐用年数が同程度となっているため、ファイナンス・リース取引の特徴を満たしている。

<実際の取引の流れ>

① リース開始時  
リースしたい物件をリース会社 (B社) に依頼します。B社は、リース物件を購入し、その物件を当社にリースします。なお、このときの当社の支払額はゼロです。

② リース期間  
リース契約に従い、リース期間5年間にわたって毎年110円を支払います (支払総額550円には、利息が含まれているため、B社購入価額500円よりも高くなる)。リース期間中は、リース物件を自由に使用することができます。なお、リース期間が終了したら、リース物件をB社に返却します (リース物件の処分はB社が行う)。

**COLUMN** のれんの由来

「のれん」の由来は、お店の入り口にかかっている布きれである暖簾です。「のれんはプレミアムのこと」と説明しましたが、そのプレミアムは、過去に積み重ねてきた信用やブランド力がもたせています。「暖簾分け」や「暖簾に傷が付く」という言葉があるとおり、日本では、お店の信用やブランドは暖簾に宿るものと考えられてきました。そのため、勘定科目も「のれん」を用いるのです。

数値例を使った方が理解しやすい場合は、Case Studyを用意しています。数値例を確認することで、具体的に理解できるようになっています。

検定試験合格のためには必ずしも必要ではないけれど、知っておくとよいことはCOLUMNに書きました。ぜひ、こちらにも目を通してほしいと思います。

3. もちろん、問題を解く力も身につけられるようになっています。

各論点ごとに例題を載せています。例題が解けるようになることを目標に、学習を進めましょう。

■例題 1-1  
次の取引について、商品売上の記帳方法を売上原価対立法による場合の仕訳を示しなさい。  
(1) 仕入先から商品22,000円を掛けて仕入れた。  
(2) 得意先へ商品を20,000円（仕入原価12,000円）で掛け販売した。

■解答欄

| 番号  | 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|-----|------|----|------|----|
| (1) |      |    |      |    |
| (2) |      |    |      |    |

■解答解説

| 番号  | 借方科目    | 金額     | 貸方科目    | 金額     |
|-----|---------|--------|---------|--------|
| (1) | 商 品     | 22,000 | 買 掛 金   | 22,000 |
| (2) | 売 掛 金   | 20,000 | 売 上 原 価 | 12,000 |
|     | 売 上 原 価 | 12,000 | 商 品     | 12,000 |

POINT

- 三分法では、決算整理仕訳で売上原価の算定を行う。
- 売上原価対立法では、期中仕訳で売上原価を算定するので、決算整理仕訳は行わない。

各論点の終わりに、ポイントが書いてあるので、効率的に学習することができます。

4. 広い試験範囲を効率的に学習できるようにするために、参考マークをつけました。

試験で出題される可能性が低い論点には参考マークを付しました。学習時間に余裕がない場合、飛ばしてしまっても構いません。

2 売上原価対立法 【参考】

✓CHECK

勘定科目 商品（資産+）：会社がその時点において保有する商品  
売上原価（費用+）：売上原価を示す費用の勘定科目

(1) 売上原価対立法とは  
売上原価対立法は、商品売買について、「商品」勘定（資産）、「売上原価」勘定（費用）および「売上」勘定（収益）を用いて記帳する方法です。三分法と異なり、期中仕訳で売上原価を算定するため、売上原価対立法では決算整理仕訳は行いません。

5. 簿記3級の総復習ができるよう、序章に3級レビューを用意しました。

3級レビュー

3級レビューには、簿記3級で学習した仕訳を一通り掲載しています。各章を学習する前に、関連する仕訳について確認するようにしましょう。

簿記3級の仕訳を一通り掲載しました。簿記3級の総復習がコンパクトにできるようになっています。

1 商品（本書の第1章と関連）

① 掛け仕入

- 商品100円を掛けて仕入れた。
- 上記の買掛金100円を現金で支払った。

|     |                 |     |                 |     |
|-----|-----------------|-----|-----------------|-----|
| (1) | (借) 仕 入 [費用+]   | 100 | (貸) 買 掛 金 [負債+] | 100 |
| (2) | (借) 買 掛 金 [負債-] | 100 | (貸) 現 金 [資産-]   | 100 |

② 手付金の支払

- 商品を注文し、手付金100円を現金で支払った。
- 上記の商品を受け取った。

|     |                 |                   |                 |     |
|-----|-----------------|-------------------|-----------------|-----|
| (1) | (借) 前 払 金 [資産+] | 100 <sup>*1</sup> | (貸) 現 金 [資産-]   | 100 |
| (2) | (借) 仕 入 [費用+]   | 100               | (貸) 前 払 金 [資産-] | 100 |

\*1 「前払金」勘定は、「前渡金」勘定でもよい。

本書のどの章に対応しているかがわかるようになっています。各章を学習する前に確認するのがおすすめです。

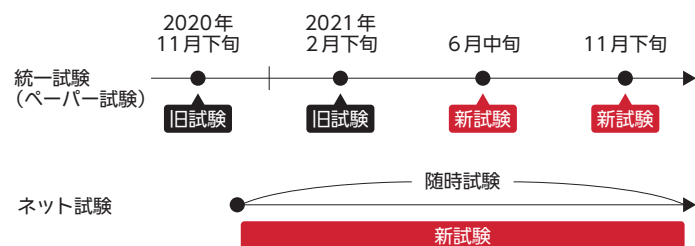
## ■日商簿記検定2級について

### 1. 従来の試験制度（旧試験）と新試験について

2020年12月よりネット試験が導入され、新試験が施行されました。新試験では以下のように形式面が変更されています。なお、試験範囲に変更はありません。

|      | 従来の試験（旧試験）  | 新試験                        |
|------|-------------|----------------------------|
| 試験時間 | 2時間         | 1時間30分                     |
| 試験形式 | ・年3回のペーパー試験 | ・年3回のペーパー試験<br>・随時実施のネット試験 |

年3回のペーパー試験を「統一試験」といい、統一試験は6月中旬（第2日曜日）、11月下旬（第3日曜日）、2月下旬（第4日曜日）の年3回実施されます。旧試験による統一試験は2021年2月(第157回)が最後で、それ以降は新試験になります。



### 2. ネット試験とは

ネット試験は、インターネット経由で配信される問題をPCの画面上で受験する試験方式です。ネット試験は、商工会議所が認定したテストセンターで受験します（自宅での受験は不可）。また、合格はその場ですぐに判明します。問題および答案用紙はPCの画面上に表示されますが、計算用紙が配布されるので、そこまで大きな不便はありません。

ネット試験の実施日時はテストセンターにより異なります（テストセンターによっては毎日実施しているところもある）。問題の難易度等は統一試験と同じであり、統一試験とネット試験のどちらで合格しても資格の価値は変わりません。



▼ネット試験の申込ページ

<https://cbt-s.com/examinee/examination/jcci.html>

### 3. 試験の概要

|          |   |
|----------|---|
| 受験資格     | なし  |
| 申込期日     | <ul style="list-style-type: none"> <li>統一試験<br/>受験日の約2ヶ月前から約1ヶ月間（受験希望地の商工会議所によって、申込期日や申込方法は異なる）</li> <li>ネット試験<br/>申込日より3日目以降（例：10日申込の場合13日以降）の予約が可能</li> </ul>   |
| 受験日      | <ul style="list-style-type: none"> <li>統一試験<br/>6月中旬（第2日曜日）、11月下旬（第3日曜日）、2月下旬（第4日曜日）</li> <li>ネット試験<br/>随時実施（テストセンターにより異なる）</li> </ul>  |
| 受験料      | 税込4,720円（ネット試験の場合、事務手数料550円が別途発生）   |
| 試験科目と配点  | 商業簿記（配点60点）、工業簿記（配点40点）   |
| 合格基準     | 70点以上（満点100点）   |
| 筆記用具について | 試験では、HBまたはBの黒鉛筆、シャープペン、消しゴムが使用可（ラインマーカー、色鉛筆、定規等は使用不可）   |
| 合格発表日    | <ul style="list-style-type: none"> <li>統一試験<br/>受験後、約1ヶ月後に発表（商工会議所により異なる）</li> <li>ネット試験<br/>受験後、すぐにその場で点数・合格が判明</li> </ul>   |
| 計算器具について | 電卓の持ち込み可（ただし、計算機能（四則演算）のみのものに限る、例えば、次の機能があるものは持ち込み不可。印刷（出力）機能、メロディー（音の出る）機能、プログラム機能（例：関数電卓等の多機能な電卓、売価計算・原価計算等の公式の記憶機能がある電卓）、辞書機能（文字入力を含む）ただし、次のような機能は、プログラム機能に該当しないものとして、試験会場での使用を可とします。日数計算、時間計算、換算、税計算、検算（音の出ないものに限る） |
| 合格率      | 40%前後であることが多い   |

※本書の刊行時のデータです。最新の情報は商工会議所のWEBサイトをご確認ください。（<https://www.kentei.ne.jp/bookkeeping>）

## 4. よくある質問

## ～新試験と旧試験の比較～

## Q1 新試験は旧試験よりも難しくなりましたか？

そのようなことはありません。むしろ、新試験の方が合格しやすくなりました。旧試験では回によって難易度にばらつきがあったため、とても難しい回も度々ありました。一方、新試験ではそのようなことが起きないような工夫がなされています。そのため、新試験の方が合格しやすくなったと言えます。

## Q2 新試験の過去問はあるか？

新試験では、問題用紙や計算用紙は回収されるようになりました。また、問題を複製したりインターネット上で公開することは禁止されています。そのため、新試験の過去問を解くことはできないようになっています。

## Q3 旧試験の教材で対策することはできるか？

新試験では、試験時間や問題構成が大きく変わりました。そのため、旧試験用の模擬試験や過去問で対策することはおすすしません。新試験に対応した模擬試験を練習するようにしましょう。

## ■書籍の訂正及び試験の改正情報について



発行後に判明した誤植や試験の改正については、下記のURLに記載しております。

[cpa-learning.com/boki\\_teisei](http://cpa-learning.com/boki_teisei)

## ～統一試験とネット試験の比較～

## Q1 ネット試験の問題は毎回違うか？

はい、違います。データベースに大量の問題がアップされており、そこからランダムに問題が抽出されます。そのため、ネット試験では、同じ日時に同じテストセンターで受験したとしても、受験者はそれぞれ違う問題を解くことになります。

## Q2 統一試験とネット試験、どちらが難しいか？

統一試験とネット試験で難易度の差はありません。統一試験の問題も、ネット試験と同じデータベースから抽出されたものなので、難易度に差が出ないようになっています。

## Q3 ネット試験は練習できるか？

CPAラーニングで練習できます。CPAラーニングでは、実際のネット試験と同一形式のシステムを採用した模擬試験をご用意しています。ぜひご利用ください。

## Q4 ネット試験と統一試験どちらがお勧めか？

ネット試験の方がおすすめです。随時受けることが可能で、その場で合否もわかるからです。

## 序章 簿記の基本・3級レビュー

|                      |    |
|----------------------|----|
| 簿記の基本                | 2  |
| 1 貸借対照表と損益計算書のひな形    | 2  |
| 2 貸借対照表と損益計算書のつながり   | 2  |
| 3 仕訳のルール             | 3  |
| 4 仕訳と勘定への転記          | 4  |
| 5 簿記の一巡(全体像)         | 5  |
| 6 期中仕訳と決算整理仕訳の違い     | 5  |
| 7 精算表                | 6  |
| 8 略語と記号              | 7  |
| 3級レビュー               | 8  |
| 1 商品(本書の第1章と関連)      | 8  |
| 2 収益認識(本書の第2章と関連)    | 9  |
| 3 現金預金(本書の第3章と関連)    | 10 |
| 4 債権債務(本書の第4章と関連)    | 12 |
| 5 有形固定資産(本書の第6章と関連)  | 13 |
| 6 引当金(本書の第9章と関連)     | 14 |
| 7 株式会社会計(本書の第10章と関連) | 14 |
| 8 税効果会計(本書の第12章と関連)  | 14 |
| 9 その他(直接関連する章はなし)    | 15 |

## 第1章 商品

|                        |    |
|------------------------|----|
| 第1節 商品売買の記帳方法(売上原価対立法) | 22 |
| 1 記帳方法                 | 22 |
| 2 売上原価対立法              | 23 |
| 第2節 払出単価の決定方法(総平均法)    | 25 |
| 1 総平均法                 | 25 |

|           |    |
|-----------|----|
| 第3節 商品の評価 | 28 |
| 1 総論      | 28 |
| 2 決算整理仕訳  | 30 |

## 第2章 収益認識

|                        |    |
|------------------------|----|
| 第1節 一時点で充足される履行義務      | 38 |
| 1 履行義務                 | 38 |
| 2 出荷基準等                | 39 |
| 3 売上割戻し（リベート）          | 41 |
| 第2節 一定期間にわたって充足される履行義務 | 44 |
| 1 有償保証（保証サービス）         | 44 |
| 2 サービス業の会計処理           | 47 |

## 第3章 現金預金

|                   |    |
|-------------------|----|
| 第1節 現金（現金の範囲）     | 52 |
| 1 現金の範囲           | 52 |
| 第2節 当座預金（銀行勘定調整表） | 55 |
| 1 銀行勘定調整表の総論      | 55 |
| 2 不一致の原因と調整方法     | 58 |

## 第4章 債権債務

|                     |    |
|---------------------|----|
| 第1節 約束手形            | 70 |
| 1 手形の裏書             | 70 |
| 2 手形の割引             | 74 |
| 3 電子記録債権の譲渡         | 77 |
| 4 手形の不渡り            | 79 |
| 5 手形の更改             | 84 |
| 6 商品売買以外の取引における約束手形 | 86 |

|           |    |
|-----------|----|
| 第2節 債務の保証 | 88 |
| 1 債務の保証   | 88 |

## 第5章 有価証券

|                          |     |
|--------------------------|-----|
| 第1節 有価証券の基本              | 94  |
| 1 有価証券の概要                | 94  |
| 2 有価証券の保有目的              | 99  |
| 3 有価証券の取得と売却             | 102 |
| 4 有価証券の保有に伴う収益           | 108 |
| 5 端数利息を伴う公社債の売買          | 111 |
| 第2節 有価証券の決算              | 118 |
| 1 有価証券の決算総論              | 118 |
| 2 売買目的有価証券の決算            | 119 |
| 3 満期保有目的の債券の決算           | 124 |
| 4 子会社株式・関連会社株式           | 128 |
| 5 その他有価証券                | 129 |
| 第3節 時価評価を行った有価証券の翌期の会計処理 | 133 |
| 1 売買目的有価証券の翌期の会計処理       | 133 |
| 2 その他有価証券の翌期の会計処理        | 136 |

## 第6章 有形固定資産

|             |     |
|-------------|-----|
| 第1節 固定資産の取得 | 138 |
| 1 建設仮勘定     | 138 |
| 2 割賦購入      | 140 |
| 3 圧縮記帳      | 144 |
| 第2節 固定資産の減少 | 148 |
| 1 買換え       | 148 |
| 2 除却と廃棄     | 151 |
| 3 滅失        | 154 |

|                          |     |
|--------------------------|-----|
| 第3節 減価償却                 | 158 |
| 1 減価償却とは                 | 158 |
| 2 記帳方法（直接法と間接法）          | 158 |
| 3 減価償却方法（定額法、定率法、生産高比例法） | 159 |
| 4 定率法の諸論点                | 163 |

## 第7章 無形資産

|               |     |
|---------------|-----|
| 第1節 研究開発費     | 168 |
| 1 研究開発費の会計処理  | 168 |
| 第2節 無形固定資産    | 170 |
| 1 無形固定資産とは    | 170 |
| 2 無形固定資産の会計処理 | 171 |
| 3 ソフトウェアの会計処理 | 173 |

## 第8章 リース取引

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| 第1節 リース取引の概要          | 178 |
| 1 リース取引とは             | 178 |
| 2 ファイナンス・リース取引とは      | 179 |
| 3 オペレーティング・リース取引とは    | 181 |
| 第2節 リース取引の会計処理        | 182 |
| 1 ファイナンス・リース取引の会計処理   | 182 |
| 2 オペレーティング・リース取引の会計処理 | 187 |

## 第9章 引当金

|             |     |
|-------------|-----|
| 第1節 引当金の概要  | 192 |
| 1 引当金とは     | 192 |
| 2 引当金の分類    | 193 |
| 第2節 貸倒引当金   | 194 |
| 1 一括評価と個別評価 | 194 |

|                     |     |
|---------------------|-----|
| 2 営業外債権に対する貸倒引当金    | 197 |
| 第3節 その他の引当金（負債性引当金） | 198 |
| 1 修繕引当金             | 198 |
| 2 賞与引当金・役員賞与引当金     | 200 |
| 3 退職給付引当金           | 203 |
| 4 商品保証引当金           | 205 |

## 第10章 株式会社会計

|                  |     |
|------------------|-----|
| 第1節 純資産とは        | 208 |
| 1 純資産            | 208 |
| 第2節 株式の発行        | 212 |
| 1 株式発行時の基本的な会計処理 | 212 |
| 2 増資の具体的手続き      | 215 |
| 3 株式発行に伴う諸経費等    | 218 |
| 第3節 株主資本の計数の変動等  | 220 |
| 1 株主資本の計数の変動     | 220 |
| 2 損失処理と欠損填補      | 223 |
| 第4節 剰余金の配当および処分  | 225 |
| 1 利益剰余金の配当および処分  | 225 |
| 2 その他資本剰余金からの配当  | 228 |
| 3 配当時の準備金の積立額の計算 | 230 |
| 第5節 合併           | 233 |
| 1 合併とは           | 233 |
| 2 合併の会計処理        | 234 |

## 第11章 外貨建取引

|              |     |
|--------------|-----|
| 第1節 外貨建取引の概要 | 240 |
| 1 外貨建取引と換算   | 240 |
| 第2節 外貨建取引の換算 | 242 |
| 1 取引発生時の会計処理 | 242 |

|          |           |     |
|----------|-----------|-----|
| 2        | 決済時の会計処理  | 245 |
| 3        | 決算時の会計処理  | 248 |
| 第3節 為替予約 |           |     |
| 1        | 為替予約総論    | 251 |
| 2        | 為替予約の会計処理 | 252 |

## 第12章 税効果会計

|                            |                     |     |
|----------------------------|---------------------|-----|
| 第1節 課税所得の計算                |                     |     |
| 1                          | 法人税等の計算             | 258 |
| 2                          | 課税所得の計算             | 260 |
| 第2節 税効果会計の会計処理（その他有価証券を除く） |                     |     |
| 1                          | 税効果会計の目的            | 265 |
| 2                          | 税効果会計の基本的な考え方       | 267 |
| 3                          | 税効果会計の具体的な会計処理      | 269 |
| 4                          | 繰延税金資産と繰延税金負債の相殺表示  | 272 |
| 第3節 その他有価証券の評価差額に対する税効果    |                     |     |
| 1                          | 税法におけるその他有価証券の取り扱い  | 273 |
| 2                          | その他有価証券の評価差額に対する税効果 | 273 |

## 第13章 財務諸表

|                |                 |     |
|----------------|-----------------|-----|
| 第1節 損益計算書      |                 |     |
| 1              | 勘定科目と表示科目       | 278 |
| 2              | 勘定式と報告式         | 279 |
| 3              | 報告式の損益計算書の詳細    | 281 |
| 第2節 貸借対照表      |                 |     |
| 1              | 貸借対照表の様式        | 284 |
| 2              | 貸借対照表の詳細        | 285 |
| 第3節 株主資本等変動計算書 |                 |     |
| 1              | 株主資本等変動計算書とは    | 298 |
| 2              | 株主資本等変動計算書の作成方法 | 300 |

|          |            |     |
|----------|------------|-----|
| 第4節 月次決算 |            |     |
| 1        | 売上原価対立法    | 303 |
| 2        | 退職給付引当金の処理 | 303 |
| 3        | 前払費用の処理    | 303 |

## 第14章 本支店会計

|                     |                    |     |
|---------------------|--------------------|-----|
| 第1節 本支店会計の基本と本支店間取引 |                    |     |
| 1                   | 本支店会計とは            | 306 |
| 2                   | 本支店間取引             | 307 |
| 第2節 本支店合併財務諸表の作成    |                    |     |
| 1                   | 本支店合併財務諸表とは        | 314 |
| 2                   | 合併整理仕訳             | 314 |
| 第3節 その他の論点          |                    |     |
| 1                   | 支店間取引（複数の支店を有する場合） | 317 |
| 2                   | 帳簿の締め切り            | 320 |

## 第15章 連結会計

|                    |                   |     |
|--------------------|-------------------|-----|
| 第1節 連結会計の基礎        |                   |     |
| 1                  | 連結財務諸表とは          | 324 |
| 2                  | 連結財務諸表の基本的な作成方法   | 325 |
| 3                  | 連結財務諸表の特徴         | 326 |
| 第2節 資本連結①（完全所有の場合） |                   |     |
| 1                  | 支配獲得時の連結財務諸表の作成   | 328 |
| 2                  | 支配を獲得した翌期の資本連結    | 334 |
| 3                  | 支配を獲得した翌々期以降の資本連結 | 341 |
| 第3節 資本連結②（部分所有の場合） |                   |     |
| 1                  | 非支配株主とは           | 342 |
| 2                  | 支配獲得時の連結修正仕訳      | 343 |
| 3                  | 支配を獲得した翌期の連結修正仕訳  | 346 |

# 序章

## 簿記の基本・3級レビュー

|                              |     |
|------------------------------|-----|
| 第4節 成果連結①                    | 359 |
| 1 内部取引高の相殺                   | 359 |
| 2 商品売買に関する未実現利益（ダウストリーム）     | 364 |
| 3 土地の売却に関する未実現利益             | 369 |
| 4 貸倒引当金の消去                   | 371 |
| 第5節 成果連結②                    | 374 |
| 1 未実現利益の消去（アップストリーム）         | 374 |
| 2 割引手形の修正                    | 379 |
| 第6節 連結株主資本等変動計算書             | 381 |
| 1 連結株主資本等変動計算書とは             | 381 |
| 2 連結株主資本等変動計算書を作成する場合の連結修正仕訳 | 383 |

## 第16章 製造業会計

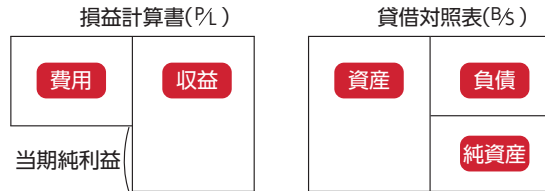
|            |     |
|------------|-----|
| 第1節 製造業会計  | 392 |
| 1 製造業会計とは  | 392 |
| 2 製造業会計の問題 | 392 |

索引 407



簿記の基本についてまとめました。いずれも日商簿記3級で学んだ、重要な内容です。先に一度目を通すようにしましょう。

## 1 貸借対照表と損益計算書のひな形



### 補足

#### 資本と純資産

日商簿記3級では「資本」となっていたものが、2級以降は「純資産」に変わります。その理由は、元手と利益ではない項目も計上されるからです。

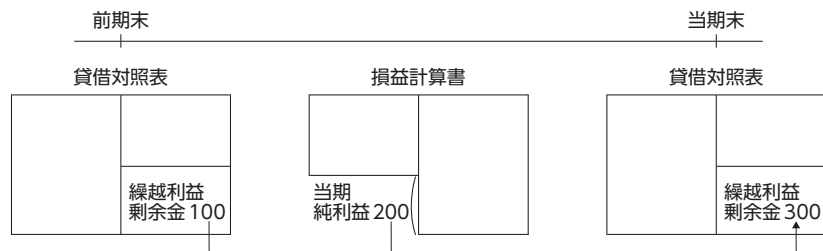
|     | 計上される項目    |
|-----|------------|
| 資本  | 元手と利益      |
| 純資産 | 元手と利益とその他* |

\*日商簿記2級では、その他有価証券評価差額金のみ（第5章で学習）

## 2 貸借対照表と損益計算書のつながり

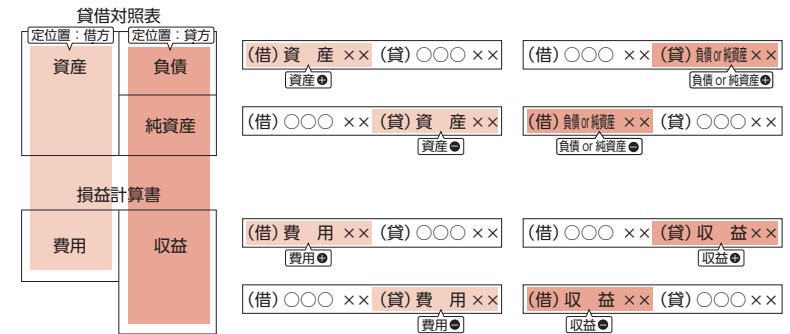
$$\text{前期末繰越利益剰余金} + \text{当期純利益} = \text{当期末繰越利益剰余金}$$

※ 配当金の支払がない場合



## 3 仕訳のルール

プラスは定位置側、マイナスは定位置の逆側



## 4 仕訳と勘定への転記

- ・仕訳をきったら、勘定に転記する。
- ・勘定の残高金額が、財務諸表計上額となる。

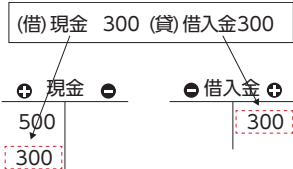
### Case Study 全体像

#### (1) 期中取引 (仕訳と勘定への転記)

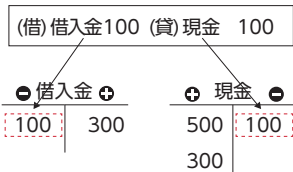
- ① 会社設立に際し、株主から現金500円を受け取った。



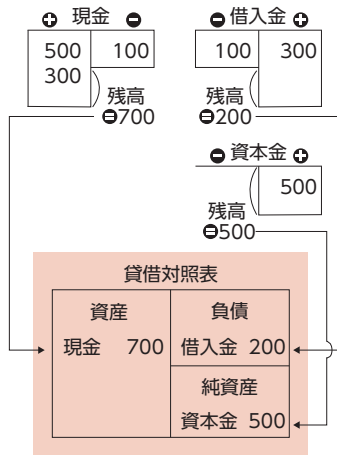
- ② 銀行から現金300円の借入れを行った。



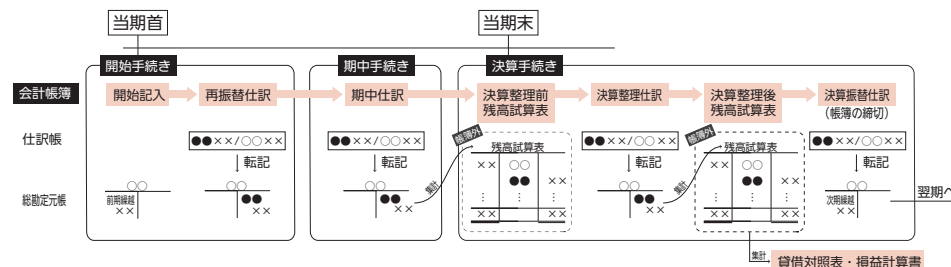
- ③ 上記借入れのうち100円を現金で返済した。



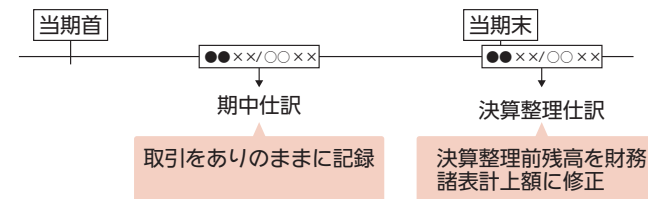
#### (2) 期末 (貸借対照表の作成)



## 5 簿記の一巡 (全体像)



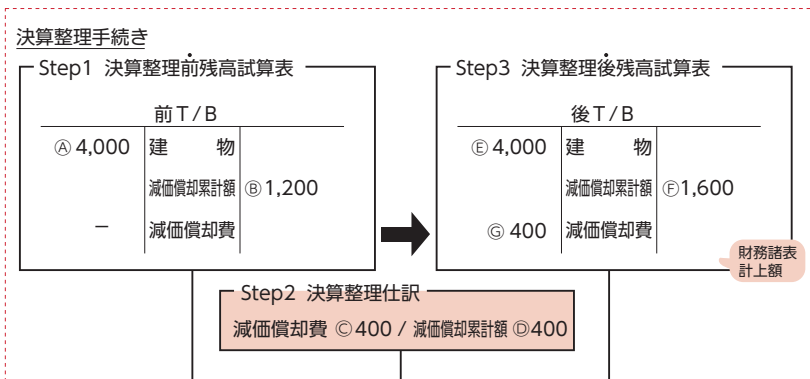
## 6 期中仕訳と決算整理仕訳の違い



### ひと言アドバイス

自分の勉強している仕訳が、期中仕訳と決算整理仕訳のどちらの仕訳なのか? という点を意識して勉強しよう!

## 7 精算表



### 精算表

|         | 試算表     |         | 修正記入  |       | 損益計算書 |     | 貸借対照表   |         |
|---------|---------|---------|-------|-------|-------|-----|---------|---------|
|         | 借方      | 貸方      | 借方    | 貸方    | 借方    | 貸方  | 借方      | 貸方      |
| 建 物     | ④ 4,000 |         |       |       |       |     | ⑥ 4,000 |         |
| ：       |         |         |       |       |       |     |         |         |
| 減価償却累計額 |         | ⑤ 1,200 |       | ③ 400 |       |     |         | ⑦ 1,600 |
| ：       |         |         |       |       |       |     |         |         |
|         | × ×     | × ×     |       |       |       |     |         |         |
| 減価償却費   |         |         | ③ 400 |       | ③ 400 |     |         |         |
| ：       |         |         |       |       |       |     |         |         |
|         |         |         | × ×   | × ×   | × ×   | × × | × ×     | × ×     |

## 8 略語と記号

| 略語・記号      | 意味   |
|------------|--|
| F / S      | 財務諸表 (Financial Statements)                      |
| B / S      | 貸借対照表 (Balance Sheet)                            |
| P / L      | 損益計算書 (Profit and Loss Statement)                |
| S / S      | 株主資本等変動計算書* (Statements of Shareholders' Equity) |
| T / B      | 試算表 (Trial Balance)                              |
| ぜん<br>前T/B | 決算整理前残高試算表                                       |
| ご<br>後T/B  | 決算整理後残高試算表                                       |
| △          | マイナス記号   |
| @          | 単価   |

★株主資本等変動計算書は、日商簿記2級で新たに登場する財務諸表です。第13章で学習します。

3級レビューには、簿記3級で学習した仕訳を一通り掲載しています。各章を学習する前に、関連する仕訳について確認するようにしましょう。

## 1 商品 (本書の第1章と関連)

### ① 掛け仕入

- 商品100円を掛けて仕入れた。
- 上記の買掛金100円を現金で支払った。

|     |                 |     |                 |     |
|-----|-----------------|-----|-----------------|-----|
| (1) | (借) 仕 入 [費用+]   | 100 | (貸) 買 掛 金 [負債+] | 100 |
| (2) | (借) 買 掛 金 [負債-] | 100 | (貸) 現 金 [資産-]   | 100 |

### ② 手付金の支払

- 商品を注文し、手付金100円を現金で支払った。
- 上記の商品を受け取った。

|     |                 |                   |                 |     |
|-----|-----------------|-------------------|-----------------|-----|
| (1) | (借) 前 払 金 [資産+] | 100 <sup>*1</sup> | (貸) 現 金 [資産-]   | 100 |
| (2) | (借) 仕 入 [費用+]   | 100               | (貸) 前 払 金 [資産-] | 100 |

<sup>\*1</sup> 「前払金」勘定は、「前渡金」勘定でもよい。

### ③ 付随費用がある場合

商品100円を掛けて仕入れ、引取費用10円を現金で支払った。

|               |     |                 |     |
|---------------|-----|-----------------|-----|
| (借) 仕 入 [費用+] | 110 | (貸) 買 掛 金 [負債+] | 100 |
|               |     | 現 金 [資産-]       | 10  |

### ④ 仕入戻し

掛けて仕入れた商品100円を返品した。

|                 |     |               |     |
|-----------------|-----|---------------|-----|
| (借) 買 掛 金 [負債-] | 100 | (貸) 仕 入 [費用-] | 100 |
|-----------------|-----|---------------|-----|

### ⑤ 決算整理手続き (売上原価の算定)

決算整理前残高試算表

|     |         |  |
|-----|---------|--|
| 100 | 繰 越 商 品 |  |
| 500 | 仕 入     |  |

・期末商品棚卸高は200円である。

|                   |     |                   |     |
|-------------------|-----|-------------------|-----|
| (借) 仕 入 [費用+]     | 100 | (貸) 繰 越 商 品 [資産-] | 100 |
| (借) 繰 越 商 品 [資産+] | 200 | (貸) 仕 入 [費用-]     | 200 |

## 2 収益認識 (本書の第2章と関連)

### ① 掛け売上

- 商品100円を掛けて販売した。
- 上記の売掛金100円を現金で受け取った。

|     |                 |     |                 |     |
|-----|-----------------|-----|-----------------|-----|
| (1) | (借) 売 掛 金 [資産+] | 100 | (貸) 売 上 [収益+]   | 100 |
| (2) | (借) 現 金 [資産+]   | 100 | (貸) 売 掛 金 [資産-] | 100 |

### ② 手付金の受取

- 商品の注文を受け、手付金100円を現金で受け取った。
- 上記の商品を引き渡した。

|     |                 |     |                 |     |
|-----|-----------------|-----|-----------------|-----|
| (1) | (借) 現 金 [資産+]   | 100 | (貸) 前 受 金 [負債+] | 100 |
| (2) | (借) 前 受 金 [負債-] | 100 | (貸) 売 上 [収益+]   | 100 |

<sup>\*</sup> 日商簿記2級では、「前受金」勘定ではなく「契約負債」勘定を用いてもよい。

### ③ 付随費用がある場合

商品100円を掛けて販売し、発送費10円を現金で支払った。

|                 |     |               |     |
|-----------------|-----|---------------|-----|
| (借) 売 掛 金 [資産+] | 100 | (貸) 売 上 [収益+] | 100 |
| (借) 発 送 費 [費用+] | 10  | (貸) 現 金 [資産-] | 10  |

### ④ 売上戻り

掛けて販売した商品100円の返品を受けた。

|               |     |                 |     |
|---------------|-----|-----------------|-----|
| (借) 売 上 [収益-] | 100 | (貸) 売 掛 金 [資産-] | 100 |
|---------------|-----|-----------------|-----|

### ⑤ 貸倒れ

- A社が倒産し、当期販売分の売掛金100円が貸倒れた。
- B社が倒産し、前期販売分の売掛金100円が貸倒れた。なお、貸倒引当金の残高は90円である。
- 前期に貸倒処理した売掛金100円を、当期に現金で回収した。

|     |                       |     |                         |     |
|-----|-----------------------|-----|-------------------------|-----|
| (1) | (借) 貸 倒 損 失 [費用+]     | 100 | (貸) 売 掛 金 [資産-]         | 100 |
| (2) | (借) 貸 倒 引 当 金 [資産控除-] | 90  | (貸) 売 掛 金 [資産-]         | 100 |
|     | 貸 倒 損 失 [費用+]         | 10  |                         |     |
| (3) | (借) 現 金 [資産+]         | 100 | (貸) 償 却 債 権 取 立 益 [収益+] | 100 |

### 3 現金預金 (本書の第3章と関連)

#### ① 通貨代用証券

- 商品100円を販売し、代金は得意先振出の小切手で受け取った。
- 商品100円を販売し、代金は送金小切手で受け取った。
- 商品100円を販売し、代金は郵便為替証券で受け取った。

|     |              |     |              |     |
|-----|--------------|-----|--------------|-----|
| (1) | (借) 現金 [資産+] | 100 | (貸) 売上 [収益+] | 100 |
| (2) | (借) 現金 [資産+] | 100 | (貸) 売上 [収益+] | 100 |
| (3) | (借) 現金 [資産+] | 100 | (貸) 売上 [収益+] | 100 |

#### ② 現金過不足

- 期中において、現金の帳簿残高は1,000円であるが、実際有高は900円であった。
- 決算日に、上記の現金不足額のうち90円は水道光熱費の記帳もれが判明したが、残額は原因不明である。
- 決算日において、現金の帳簿残高は1,000円であるが、実際有高は1,100円であった。

|     |                  |     |                  |     |
|-----|------------------|-----|------------------|-----|
| (1) | (借) 現金過不足 [仮勘定+] | 100 | (貸) 現金 [資産-]     | 100 |
| (2) | (借) 水道光熱費 [費用+]  | 90  | (貸) 現金過不足 [仮勘定-] | 100 |
|     | 雑損 [費用+]         | 10  |                  |     |
| (3) | (借) 現金 [資産+]     | 100 | (貸) 雑益 [収益+]     | 100 |

#### ③ 当座預金 (小切手)

- 商品100円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
- 商品100円を販売し、代金は得意先振出の小切手で受け取り、ただちに当座預金に入金した。
- 商品100円を販売し、代金は当社振出の小切手で受け取った。

|     |                |     |                |     |
|-----|----------------|-----|----------------|-----|
| (1) | (借) 仕入 [費用+]   | 100 | (貸) 当座預金 [資産-] | 100 |
| (2) | (借) 当座預金 [資産+] | 100 | (貸) 売上 [収益+]   | 100 |
| (3) | (借) 当座預金 [資産+] | 100 | (貸) 売上 [収益+]   | 100 |

#### ④ 当座借越

- 商品100円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金残高は90円であるが、当座借越契約を結んでいる。
- 上記のまま、決算日となった。

|     |                |     |                |     |
|-----|----------------|-----|----------------|-----|
| (1) | (借) 仕入 [費用+]   | 100 | (貸) 当座預金 [資産-] | 100 |
| (2) | (借) 当座預金 [資産+] | 10  | (貸) 当座借越 [負債+] | 10  |

#### ⑤ 預金に関するその他の論点

- 買掛金100円について、普通預金から支払った。なお、手数料が10円生じた。
- Y銀行の普通預金口座とZ銀行の当座預金口座にそれぞれ現金100円を預け入れた。なお、銀行名と口座種類を組み合わせた勘定科目を用いている。

|     |                    |     |                |     |
|-----|--------------------|-----|----------------|-----|
| (1) | (借) 買掛金 [負債-]      | 100 | (貸) 普通預金 [資産-] | 110 |
|     | 支払手数料 [費用+]        | 10  |                |     |
| (2) | (借) Y銀行-普通預金 [資産+] | 100 | (貸) 現金 [資産-]   | 200 |
|     | Z銀行-当座預金 [資産+]     | 100 |                |     |

#### ⑥ 小口現金

- 定額資金前渡制度による小口現金制度を採用するため、用度係に小切手100円を振り出して小口現金を渡した。
- 上記の数日後、用度係から消耗品費90円の支払いを行った旨の報告を受けた。
- (2)の報告を受け、支払額と同額の小切手を振り出し、小口現金を補給した。

|     |                |     |                |     |
|-----|----------------|-----|----------------|-----|
| (1) | (借) 小口現金 [資産+] | 100 | (貸) 当座預金 [資産-] | 100 |
| (2) | (借) 消耗品費 [費用+] | 90  | (貸) 小口現金 [資産-] | 90  |
| (3) | (借) 小口現金 [資産+] | 90  | (貸) 当座預金 [資産-] | 90  |